

宇美町商工会

経営発達支援計画事業評価報告書

令和 7 年 7 月 9 日

作成者 中小企業診断士事務所 ベストパートナー

代表 本多俊一

はじめに

令和 7 年 6 月 30 日（月）、10 時より宇美町商工会会議室において、宇美町商工会の令和 6 年度の経営発達計画による支援事業の実施結果の説明を経営指導員 田中（敬称略以下同）が行い、評価委員会委員が評価を行った。

今年度の宇美町商工会事業評価委員会は、委員長 中小企業診断士 本多俊一、副委員長 株式会社筑前福岡 伊東恵 宇美町役場 シティプロモーション課 課長 竹下健一、福岡県商工会連合会 福岡拠点 黒木伸の 4 名で構成されている。委員会では、田中経営指導員からの令和 6 年度の事業内容の説明を受け意見や質問を行った。評価については委員会の時間内で行うのではなく、各自持ち帰った結果を 7 月 7 日までに提出することとし、報告にまとめることとした。以下は、評価委員会での討議内容及び評価結果をまとめたものである。なお、評価結果記載の順番等は、各評価の内容でランダムに記載している（敬称略以下同）。

議事

田中指導員から委員に対し、経営発達支援事業の事業全体の概要について説明の後、それぞれの事業別に実施状況について説明を行い、委員からの質問や意見に対し、田中指導員が回答した結果を踏まえ委員が評価表の評価・検証結果フォームにより評価を行い、評価結果フォームの集計の後講評をまとめた。評価する項目については以下の内容である。

【経営発達支援事業の内容】

- ① 地域の経済動向調査に関すること
- ② 需要動向調査に関すること
- ③ 経営状況の分析に関すること
- ④ 事業計画策定支援に関すること
- ⑤ 事業計画策定後の実施支援に関すること
- ⑥ 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること
- ⑦ 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること
- ⑧ 経営指導員等の資質向上等に関すること
- ⑨ 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること
- ⑩ 地域経済の活性化に資する取り組みに関すること

事業ごとの評価

以下に事業ごとの評価を記載する（区分別の個別の内容については省略し判定を記載）。

【経営発達支援事業】

① 地域の経済動向調査に関すること

・国等が提供するビッグデータ・統計データの活用

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	D	A
必要性	A	A	D	A
有効性	A	B	D	A
効率性	A	A	D	A

・管内小規模事業者へのヒアリングによる業種別景気動向調査

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	D	A
必要性	A	A	D	S
有効性	A	A	C	B
効率性	A	A	C	A

総合評価	甲	乙	丙	丁
	A	A	C	A

【講評】

- ・経済の実態を把握し、政策立案や企業の経営判断に役立てるために、ホームページに掲載し情報提供を行っている。広報誌、公式LINE等で周知しているが、更なる活用促進のために各機関等とも連携を図り、引き続き継続して取り組んでいく必要がある。
- ・両項目ともに目標数値は達成されている。特に②については目標を大きく上回る実績だった。調査結果の公表においては、より多くの人の目に留まるようLINEで発信するなど、周知方法の工夫も見られる。
- ・事業者がこの情報をどれだけ活用しているか不明と述べられ、実際の個社支援の際に調査結果を活用するなど、事業者へ情報の使い方を伝えることも解決策の一つかと思う。
- ・ビッグデータが必要と感じる事業者は自ら調べるとわれ、逆に活用してない事業者に公表されている内容を案内し、どのように活用できるか情報提供した方がよい。
- ・管内小規模事業者のヒアリングは動向を聞くだけでなく、その結果を踏まえ、どのような対応や工夫をしているかを加えるとさらに良くなると考える。

【事業の方向性】

縮小 1 条件付き維持 0 維持 2 拡大 1

② 需要動向調査に関すること

・商談会・展示会（BtoB 向け）での商品バイヤーへのニーズ調査

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	C	A	A
必要性	A	C	A	A
有効性	A	C	B	A
効率性	A	C	A	A

・販売会（BtoC）での一般消費者へのニーズ調査

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	B	A	A
必要性	A	B	S	A
有効性	A	B	B	A
効率性	A	C	A	A

総合評価	甲	乙	丙	丁
	A	B	A	A

【講評】

- ・ニーズ調査においてバイヤーが何を求めているか。価格と付加価値のあるもの、珍しいものを提供するなどが必要と思われるが、現状では拡大は難しいと思われる。
- ・対象となる事業所に偏りがあるなどの課題があるが、消費者アンケートなどを実施し、需要動向に関する情報収集に努め、利益の確保や売り上げの向上につながる支援を行っている。
- ・消費者アンケートを見ることの意味があるが、その結果が事業者提供されていなかったのであれば意味がない。次回は提供できるように工夫してほしい。
- ・②は目標を大きく上回っているものの、①は目標に届いていない。商談会出店者にアンケートを実施できれば達成可能な項目であり、出店者への調査を検討して貰いたい。

【事業の方向性】

維持 3 条件付き拡大 0 拡大 1

③ 経営状況の分析に関すること

・通常の経営分析

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	A	B
必要性	D	A	A	C
有効性	B	A	A	B
効率性	A	A	A	C

・重点経営分析

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	A	B
必要性	S	A	A	B
有効性	B	A	A	B
効率性	A	A	A	B

総合評価	甲	乙	丙	丁
	A	A	A	B

【講評】

- ・相談者に課題の認識があれば聞く耳を持つが、それ以外の課題に認識されていないのであれば、まず課題と思われることを説明し、意識してもらうことから始めることが必要と考える。
- ・引き続き経営分析の必要性和分析を勧め、個別の伴走支援等を行い件数を増やすことが重要。
- ・概ね目標を達成しており、順調な進捗であると認識できる。特にローカルベンチマークを活用するなど、効率的な事業運営の取組みが見られる。
- ・

【事業の方向性】

維持 2 条件付き拡大 1 拡大 1

④ 事業計画支援に関すること

・巡回・窓口相談（経営分析参加者）による事業計画策定件数

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	B	A	A	A
必要性	B	A	A	A
有効性	B	A	A	A
効率性	C	A	A	A

・事業計画作成セミナーを通じた事業計画策定件数

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	B	A	A	A
必要性	C	A	A	A
有効性	B	A	A	A
効率性	C	A	A	A

・創業塾を通じた事業計画策定件数

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	C	A	A	A
必要性	C	A	A	A
有効性	C	A	A	A
効率性	C	A	A	A

・事業承継アンケートを通じた事業計画策定件数

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	B	A	A	A
必要性	C	A	A	A
有効性	C	A	A	A
効率性	C	A	A	A

総合評価	甲	乙	丙	丁
	B	A	A	A

【講評】

- ・ほぼ目標は達成されており、順調な進捗と認識でき、このままの支援継続でよい。
- ・巡回・窓口相談（経営分析参加者）を行った事業者に対し、事業計画の策定支援を行う

など積極的に取り組んでいる。

- ・事業計画の策定は補助金申請や金融機関から言われないと必要性を感じていない事業者が多い。特に事業承継問題は早くから考えていく必要があり、ニーズもあると思われ掘り起こすことが望まれる。

【事業の方向性】

維持 2 条件付き維持 1 拡大 1

⑤ 事業計画策定後の実施支援に関すること

- ・通常先へのフォローアップ

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	B	A
必要性	A	B	B	A
有効性	A	A	B	A
効率性	A	A	B	A

- ・重点支援先へのフォローアップ

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	B	A
必要性	A	A	C	A
有効性	A	A	C	A
効率性	A	A	C	A

総合評価	甲	乙	丙	丁
	A	A	B	A

【講評】

- ・経営分析と事業計画策定は、企業の継続的な成長と成功に不可欠なプロセスであり、経営分析は企業の現状を客観的に評価し、強みや弱み、機会や脅威を把握する活動である。事業計画策定は経営分析の結果を踏まえ、具体的な目標を設定し、それを達成するための戦略や計画を立てる活動であることから、PDCA サイクルでの支援が必要。
- ・課題に記載されている通り、現状は支援対象先の基準がなく、相談が多い先から振分けられている状況では支援を受けられることを知らない事業者、特に商工会会員にそのような人がいる可能性を考えると早期に対応が必要である。
- ・①については目標に到達しなかった項目があったが、他の商工会が苦戦している利益率や売り上げの調査については、多くの項目で達成しており、フォローアップに注力して

いることが窺えた。

【事業の方向性】

維持 1 条件付き維持 1 拡大 2

⑥ 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

・商談会・展示会への出展支援（BtoB）

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	A	B
必要性	A	A	A	B
有効性	A	A	A	C
効率性	A	A	A	C

・即売会への出展支援（BtoC）

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	A	B
必要性	A	A	A	B
有効性	A	A	A	B
効率性	A	A	A	B

・I T活用度向上支援

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	A	B
	A	A	A	C
有効性	A	A	A	C
効率性	A	A	A	C

総合評価	甲	乙	丙	丁
	A	A	A	B

【講評】

- ・地産品等物販するためのアイデアが足りない。付加価値、他社との連携などが必要。
- ・概ね目標を達成しており、販路開拓ができたと認識できる。商談会に出店して事業者に対しては、商談ができたかどうかの調査を行っているとのことであり、実際に販路が広がったかの調査を行えば、次の支援につなげやすい。
- ・宇美町町内外のネットワークを活かすとともに、SNS を活用した販路拡大に向け、ニーズに応じた研修会（先進事例等）を実施するなどの継続的な支援が必要。

- ・商談会・展示会。即売会への出展支援については従来から行っている取組みを継続しているが、新たな先の開拓を望みたい。IT 活用においては、ニーズはあると思うが、どのようなことができるかについての支援・助言が求められる。

【事業の方向性】

維持 2 条件付き維持 1 拡大 1

⑦ 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関するもの

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	B	A
必要性	B	A	B	A
有効性	B	A	B	A
効率性	A	A	B	A

総合評価	甲	乙	丙	丁
	B	A	B	A

【講評】

- ・概ね、現状での継続でよい。
- ・毎年開催していることであり、今後も継続してもらいたい。
- ・会員事業者の方の意見、事業評価に関するフィードバックなどを踏まえて協議する場があっても良いのではないか。

【事業の方向性】

維持 3 拡大 1

⑧ 経営指導員の資質向上等に関すること

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	A	A	A	A
必要性	B	A	A	A
有効性	B	A	A	A
効率性	A	A	A	A

総合評価	甲	乙	丙	丁
	B	A	A	A

【講評】

- ・支援体制の強化、構築に向け、課題を整理し、ジョブローテーションや情報共有を図るための仕組みづくりや環境づくりに取り組んでいる。
- ・昨年度は定額減税に関する勉強会を実施し、今年度はCanva等の研修会を行う計画とのことであり、時流に即した資質向上を意識しており、非常に良い取り組みである。
- ・多忙の中で商工会として資質向上の支援には限界があると思われ、それぞれが自らの自己啓発に取組もうと思う環境や情報提供が必要と考える。

【事業の方向性】

維持 3 拡大 1

⑨ 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

区分	甲	乙	丙	丁
必要性	B	A	A	A
必要性	B	A	A	A
有効性	B	A	A	A
効率性	B	A	A	A

総合評価	甲	乙	丙	丁
	B	A	A	A

【講評】

- ・多くの支援機関と連携している。特に働き方改革センターとの連携によって、助成金の申請支援も行っており、事業者支援の成果につながっている。今後も多くの支援機関と連携をしてもらいたい。
- ・引き続き、他団体等の連携を図り、地域資源の活用、新たなビジネスモデルの構築、販路開拓、会員間の交流促進などにつなげてもらいたい。
- ・駅前、ユービオス、萬代酒工房、宇美八幡、歴史的価値の観光としての活かし方も行政とともに検討できるのではないか。
- ・他の支援機関との連携は単独ではできないため、地域他商工会と共同で行うことを検討してはどうか？また、支援機関を従来とは異なる先（弁護士会、社労士会、中小企業診断士協会など）との連携も良いと考える。

【事業の方向性】

維持 3 拡大 1

⑪ 地域経済の活性化に資する取り組みに関すること

⑫ 区分	甲	乙	丙	丁
必要性	B	A	A	A
必要性	B	A	B	A
有効性	B	A	B	A
効率性	B	A	B	A

総合評価	甲	乙	丙	丁
	B	A	B	A

【講評】

- ・駅前シャッターアート事業がなくなったのは残念であるが、新たな地域活性化事業のため、今後も他団体等との連携に努めてもらいたい。
- ・地域の方向性や特産品、地域おこし、観光振興などを含めた地域のブランド化・賑わいの創出による地域経済の波及効果等について行政と連携を図り、魅力ある街づくりのための仕組みづくり、体制作りが必要。
- ・駅前の再開発を進める。近辺を含むマンション等人口増を見込める施策が必要であり行政との連携をさらに求める。
- ・取り組みは良いが一部のエリアや業種に偏っているのではないかと。例えば、工業団地や運動公園など今までとは違う場所でのイベントを行うこと等を検討してみてはどうか。

【事業の方向性】

維持 3 拡大 1

総評

令和6年度は業種・業界によってコロナからの回復傾向が顕著に現れている一方で円安による材料費、燃料費、電気料金などの物価が高騰し、一部の大手企業の賃上げはあるものの中小企業の賃上げは十分とは言えず、実質所得の増加が追い付いてないため個人の消費マインドがなかなか回復しない状況であった。福岡市内は外国人観光客が戻ってきており、にぎわっているものの宇美町も含めた福岡市の周辺までは足を延ばすことはなく、宇美町でインバウンド需要を含め消費需要の増加が十分だとは言えない状況である。

今回の協議においても観光需要の掘り起こしが必要という意見もあり、今後宇美町商工会が地域活性化を支援していくうえで、従来の経営支援の枠にとどまらず、新しい取り組みを行う事業者への支援や、ITを活用して効率化や生産性を高めること等で自社の優位性を高める取り組みが必要な事業者や、検討しているが方法が分からない事業者へのアプロ

一チが望まれている。

一方で、このような前向きな取り組みをサポートすることはもちろん、コロナ期にやむを得ず利用したゼロゼロ融資の返済が始まり財務状況が厳しい事業者も増えている中で、経営分析や事業計画の策定による経営改善への取り組みが急務となっている状況であり、宇美町商工会の会員はもちろん非会員事業者も気軽に相談できる支援機関としての役割が高まっている。

今回の事業評価においては概ね、どの項目においても目標を達成もしくは、それに近い結果となったが、見方を変えれば、今後、さらに支援を行うにおいて、今までの支援内容を改めて見直していくことも求められているともいえるのではないかと考える。

前々年度、宇美町商工会の支援においては事業承継支援の効果が高かったが、昨年度は支援目標が2件、実績も2件で達成はしているものの経営者の高齢化が進んでいる現在、全国的に後継者がいないために廃業している事業者も増加しており、宇美町においても重要な課題であり、今後重点項目として考えていく必要があると考える。小規模事業者は特に後継者問題に悩んでいるがどこに相談したらいいかわからない人が多いと思われ、事業承継補助金の活用等の提案や事業承継計画策定の支援など事業者への関りが重要と考える。

宇美町商工会では従来から、小規模事業者の確定申告や経営革新計画策定などの申請支援等で商工会に相談に来る事業者（創業予定者も含む）に対し、各種補助金の申請につなげるなど柔軟な対応が行われており商工会の役割を十分に発揮してきている。今後は、それに加え、さらに幅広い支援を行っていくために経営指導員などの経験やスキルのさらなる向上が必要となり、指導員自らが課題を認識して行う自己研鑽はもちろん、組織としての研修なども必要性が高まる。昨年度もまた、行政や近隣の他商工会との連携による取り組みは順調に効果が表れており、今後さらに情報共有や交流を行なうことで地域経済の活性化に資する取り組みが可能となるため、宇美町はもちろん、周辺の商工会・行政とも連携し、地域の事業者のさらなる支援に繋がる取り組みに期待する。

以 上